

本年度の重点	1	学習指導の充実…「確かな学力の定着」への取り組み
目標（評価規準）	全ての学級で授業規律を確立させる。その上で全校体制で、学力の向上に取り組む。	
重点に係る現状 設定理由	全職員協力体制の下、数年間にわたって全ての児童が安心して学力向上に取り組めるよう努めてきた。周年行事後も学校最大のテーマは学力向上策である。これまでも全校の朝の取組として、計算、短作文などを設定してきた。これらは工夫・改善しつつ継続する。学力向上のためにはまず教師個々の力量を高める必要がある。三浦市の研究指定を受け、公開研修会を実施し外部の目を生かしてさらに実践力の向上を目指す。また公開授業によって児童の自信にもつなげたい。そのため、外部の講師を招き研修会を充実させ、2学期終了までに教員全員が公開授業をする。授業外では、各学年の実態にあった家庭学習のシステムを推進する。夏休みなどには補習も実施する。また、従来からある学区の強みを生かした海洋教育など特色ある学習を発展・深化させる。必要な児童には合理的な配慮ができるよう組織として支援すると共に教師の個別指導の力量も向上させる。新学習指導要領への対応も確実に推進する。加えてそれら施策を実現させる前提として確立された授業規律を崩さず安心して学べる環境をつくる。以上の理由で重点を設定した。	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	A～Dの4段階で評定したアンケートでは、相互評価でABの計が連続で100%となった。全職員協力の下、授業規律が保たれていた。授業力を上げるために全員が公開授業を実施した。長年できなかった公開研修会開催が実現した。外部からの助言も取り入れ授業力を上げようという意欲が高まった。全職員の協力による取り組みが進められていた。
各アンケート等の結果	保護者アンケートでは、基礎基本充実の取組に関する設問において4年連続でABの計が9割を越え、今年度は94%（A評定は60%）に達した。また高学年の自学帳の取り組みや百人一首など教科を越え校外とも繋がる学習を評価するコメントがあった。
自己評価結果 (見解と改善方策)	授業を他校の職員などにも公開する研修会開催が実現し、教師の授業力向上への道筋ができた。来年度も開催することが決定している。授業規律の徹底や全校一斉の朝の学習の実施は定着したといえる。さらに外部から海洋教育など特色ある取組への高い評価が与えられ児童の自信となっている。教職員が一体となって児童の学力向上と自らの授業改善に集中できている状態が続いている。今年度は児童の思考スキルを育てるため思考ツールの第一人者を招き研修の講師としたことも有効であった。今後もより高いレベルの授業を目指し教員個々の力量をあげる必要がある。
学校関係者評価結果	概ね学校の方向性を支持する。取組の成果が表れている。児童の力と自信が増していることを評価する。小学校において身についた力が中学校でも発揮されている。話し合いの力が伸びている。海洋教育など特色ある学習をさらに発展・深化させてほしい。
最終改善方策	成果があがっている朝の取組を工夫・改善しつつ継続し、「計算の日」に替わり新たに「思考の日」（仮称）を設けさらに深い学びを目指す。三浦市の研究指定を延長（3年目）し、内容を深化させる。第2回公開研修会を10月30日に開催する。全教員が2学期終了までに公開授業を実施する。外部講師の活用も継続し、教師個々の力量を高める。新学習指導要領完全実施を円滑に推進し、評価方法も改善する。海洋教育など特色ある学習を充実発展させる。それら施策を実現させる前提として確立された授業規律を崩さず安心して学べる環境を守る。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	学年・学級経営の充実…「豊かな心の育成」への取り組み
目標（評価規準）	チームとしての児童指導を充実させ、人とのかかわりの中で人権感覚・道徳心の醸成を進め、協働することの価値に気づかせる。	
重点に係る現状 設定理由	児童がネットやゲームの依存に陥りやすい社会環境になっていることが全国的な課題になっている。そこで、学校における指導だけでなく家庭にも理解と協力を求める。またSCやSSWと連携し児童の健全育成に努める必要がある。医療や福祉の外部機関とも連携する。支援が必要な児童や家庭にも丁寧に対応する。特に心の悩みや家庭の課題に対しては全職員理解の下、細心の注意をはらう。教育課程外である外遊び・ボランティアや児童会の創意工夫による様々な取組が発展するよう指導に努めたい。挨拶、読書、自学など基本的な生活習慣を大切にす。道徳を中心に人権感覚を大切に児童指導を充実させる。自らが集団の中で生かされていることに気づき、思いやりを持って他者に接することのできる「豊かな心」の育成を目指したい。支援教育も児童指導の一部として機能するように工夫する。児童を勇気づけたり規律をやらせる基本的な指導の技能を磨く。また全ての職員が全学年・全学級のサポートをする意識をもち協力体制を充実させる。いじめ防止等重大な問題に対して人権感覚を大切に児童指導をさらに充実させる。これまで児童指導専任を配置し、全学年・全学級のサポートを充実させてきた。今年度はその経験を生かし4～6年生には副担任を配置しさらなる児童指導の充実をはかる。引き続きチームとして児童指導にあたる態度を職員全員で徹底する。このよう理由で重点を設定した。	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	4段階での評定では重点1と同様の結果であった。チームとして児童指導にあたることのできているので安心して取り組めると感じている状態が継続している。職員間のコミュニケーションの良さも引き続き評価されている。副担任システムも有効であったとコメントされた。児童会を中心に活気ある学校生活になっており、異学年交流も盛んである。
各アンケート等の結果	保護者アンケートでは、児童指導の設問において4年連続でABの計が9割を越え、今年度は93%（A評定は9ポイント上昇し62%）に達した。また各学級の児童の様子に関してルールを守り楽しそうであるという結果が大多数であった。（「楽しそう」AB評定96%、「ルール、協力」AB評定98%）保護者アンケートでも職員のチームによる児童指導が評価されていた。学校が楽しく安心できる場であることが認められている。
自己評価結果 (見解と改善方策)	チームによる指導によって授業規律が確立し、課題が認識されたときは全職員の協力により、秩序が維持されていた。休み時間は多くの児童が教師と共に校庭に出て汗を流している。SCやSSWと連携し問題が重篤化しないよう予防に努めた。必要に応じて医療や福祉の外部機関とも連携した。支援が必要な児童や家庭には特に丁寧に対応できた。いじめの予兆などがあれば担任・副担任・級外の教師が一体となって問題解決に向かって協働することができた。副担任のシステムが有効だった。学校評価アンケートでは特に「児童のネット利用について」記述を求め結果を学校だよりで返し、各家庭の意識向上に努めた。ネットをめぐる大きなトラブルは認知されていないが引き続き警戒し、指導・周知を継続していく。
学校関係者評価結果	概ね学校の方向性を支持する。ネット利用をめぐる課題は家庭に大きな責任がある。家庭と共に取り組んでほしい。若い教師は多いが指導の芯がしっかりしていて、児童や保護者と同じ目線で接していることを評価する。
最終改善方策	成果をあげているチームによる児童指導を充実させるために支援担当や担任以外の教師を含めた全職員で協力体制を構築する。小規模化が進み職員が減る中でサポートしあう意識を大切にする。ネットをめぐる課題を解決するために引き続き家庭にも理解と協力を求め、関係機関と連携する。また心の悩みや家庭の課題に対してはSCやSSWと連携し必要に応じて医療や福祉、警察といった外部機関とも連携する。支援が必要な児童や家庭には特に丁寧に対応する。活発な児童会活動を生かし、集団遊びを引き続き推奨するなど児童の心身の健康を維持向上させる指導に努める。いじめ防止等重大な問題に対して人権感覚を大切に児童指導を充実させる。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	地域・家庭・学校との連携…「地域教育力の活用」への取り組み
目標（評価規準）	「地域教育力」の活用を図り、豊かな教育活動を推進する。	
重点に係る現状 設定理由	<p>連携に関して保護者・地域等の評価が安定してきている。昨年度、開始した周年行事以降の新たなPTA行事も成功し継続が決まった。今後さらに個々の職員のコミュニケーション能力を向上させ、授業づくり・児童指導などに保護者・地域の力を生かせるよう努める。安全指導に関しても、これまでの警察や交通安全協会との協力関係を大切にしつつ、PTAを中心とした保護者自らの手による子ども110番への対応や見守りなど学校外の安全安心の取り組みを学校として支援する。休業中もサマースクール実施などを通して連携をはかる。学校の状況を家庭・地域に情報提供し、ボランティアを要請するなどサポーターとして家庭・地域も協働して学校をつくっていくという意識の広がりをさらに進める。また学校の取り組みが保護者等に十分理解されるようあらゆる手段を使う。地域の協力や行政の支援を生かしながら教育を推進する。海洋教育など地域の強みを生かした学習をさらに充実させる。様々な問題に取り組む際には、関係機関と十分な連携をとりながら改善をはかる。SSWやSCなど専門職配置が改善されていることを生かし、連携の質をさらに高める。外部講師による指導など楽しい学校づくりにも努める。また児童数減少に対応できるような組織の改編や仕事の精選も同時に模索し、小規模の良さを発揮できるよう連携のあり方も工夫する。このような理由で重点を設定した。</p>	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	地域や関係機関との連携が引き続き広がり深化している。海洋教育など特色ある教育においても連携が児童の学びに繋がっているというコメントがあった。また職員同士のコミュニケーションも良好であったと感じている。SSWやSCが有効に機能し、課題ある児童や家庭に対する支援も充実していると感じている。新たなPTA行事も円滑に継続できている。
各アンケート等の結果	保護者アンケートでは、連携の設問において評価結果が上がっている。ABの計は92%だった。(A評定は49→55)。担任や級外の教師とのコミュニケーションが良好という状態が続いている。
自己評価結果 (見解と改善方策)	地域の学生ボランティアが交代しながら学習、児童指導に参加し、次世代の教員養成にも寄与できている。周年行事の後継であるPTAを中心とした「サマーフェスタ」が定着してきた。夏休み終盤のサマースクール実施と併せ、教科学習以外の学びにも繋いだ。安全指導に関しても、これまでの警察や交通安全協会との協力関係を大切にしつつ、PTAを中心とした保護者自らの手による子ども110番への対応や下校見守りなどができた。あらたに「安全委員会」として組織化した。警察・交通安全協会との連携によりあらたな自転車チームが県で好成績をあげた。また海洋教育などの授業でも関係機関との連携が深まり、成果をあげた。SSWやSCなどの専門職との協力関係はより円滑になりフル稼働している。授業研究におけるあらたな外部講師招聘も有効だった。今後さらに個々の職員のコミュニケーション能力を向上させ、授業づくり・児童指導などに地域の力を生かせるよう努める。
学校関係者評価結果	概ね学校の方向性を支持する。教師と児童との関係がよく、連携を大切にしたい学校づくりがうまくいっている。小規模化する中で、サマーフェスタなど新たな取組はできる範囲で続けることが大切である。今後、新たな感染症対策など偶発的な危機にも関係機関と連携してしっかり対応してほしい。
最終改善方策	小規模化が急激に進む中で組織や行事の規模などを見直しながらよりよい連携を目指す。PTAの常置委員会を6から4に再編成し少人数でも取り組みやすい組織をつくる。中でもあらたに組織されたPTAの「安全委員会」を中心として将来は地域の協力による見守り体制を強化できるよう方向性を示す。地域の学生や経験豊かなボランティアの力を借りながら指導を充実させ、同時に次世代の教員養成にも貢献する。また海洋教育などの授業でも関係機関との連携を大切に。SSWやSCなどの専門職との協力関係を継続する。授業研究におけるあらたな外部講師招聘も続ける。あらたな感染症など危機に際しても地域・関係機関と連携し児童の安全を守り、課題を解決していく。今後さらに個々の職員のコミュニケーション能力を向上させ、授業づくり・児童指導などに地域の力を生かせるよう努める。